

食品安全情報（微生物） No.10 / 2024（2024.05.15）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

[【米国疾病予防管理センター（US CDC）】](#)

1. 有機栽培のクルミに関連して複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイク（2024年4月30日付初発情報）

[【欧州疾病予防管理センター（ECDC）】](#)

1. リステリア（*Listeria monocytogenes*）のタイピング技術に関する第9回外部精度評価の報告書

[【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】](#)

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

[【欧州疾病予防管理センター（ECDC）／欧州食品安全機関（EFSA）】](#)

1. 欧州連合（EU）域内の人獣共通感染症に関する One Health の観点からの報告書（2022年）

[【欧州食品安全機関（EFSA）】](#)

1. 牛海綿状脳症（BSE）および伝達性海綿状脳症（TSE）に関する科学ネットワークの2023年次報告書

[【英国保健安全保障局（UK HSA）】](#)

1. 超多剤耐性を示す赤痢菌の感染者増加に対する注意喚起

[【ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）】](#)

1. 人獣共通感染症および食品安全に関するシンポジウムを開催：食品の微生物汚染、食品由来感染および防止対策
2. 英国食品基準庁（UK FSA）とドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）がリスク評価およびリスクコミュニケーションに焦点を当て食品安全に関する科学交流を実施

[【ProMED-mail】](#)

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報（15）

【各国政府機関】

- 米国疾病予防管理センター（US CDC: Centers for Disease Control and Prevention）

<https://www.cdc.gov/>

有機栽培のクルミに関連して複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイク（2024年4月30日付初発情報）

E. coli Outbreak Linked to Organic Walnuts

Posted April 30, 2024

<https://www.cdc.gov/ecoli/walnuts-04-24/index.html>

<https://www.cdc.gov/ecoli/walnuts-04-24/details.html>（Investigation Details）

<https://www.cdc.gov/ecoli/walnuts-04-24/map.html>（Map）

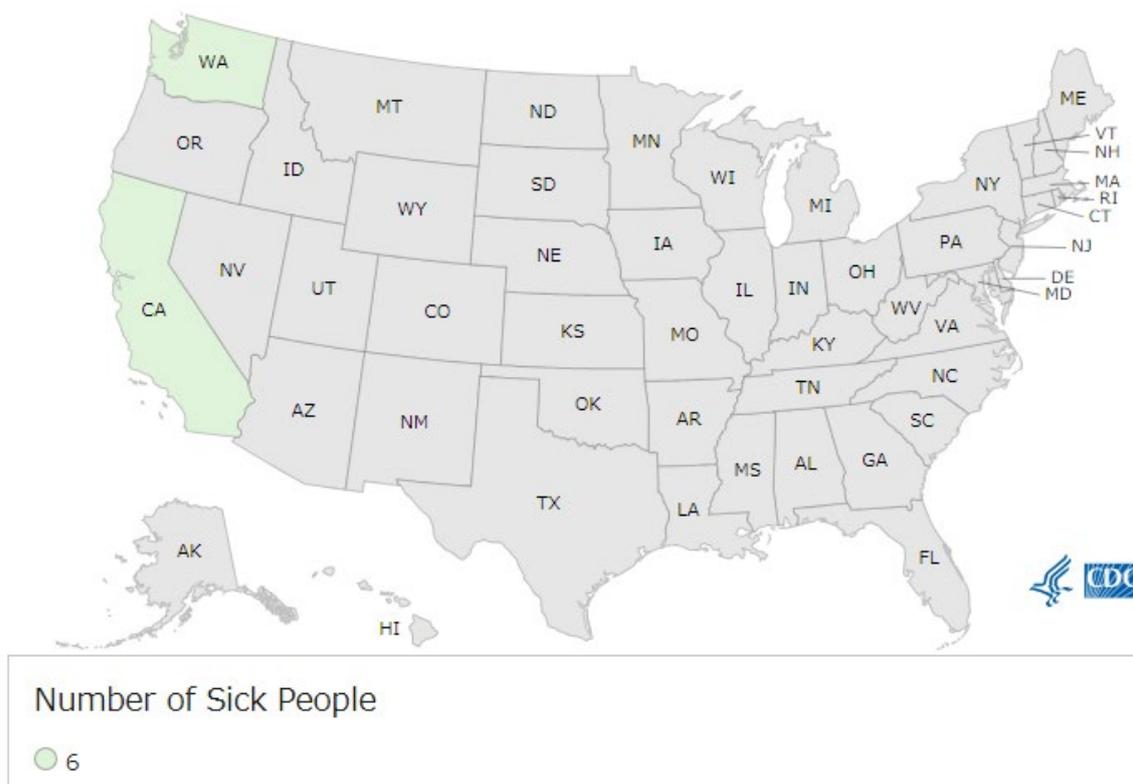
米国疾病予防管理センター（US CDC）、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局（US FDA）は、複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集している。

疫学・追跡調査によるデータは、Gibson Farms 社が供給した有機栽培のクルミに大腸菌汚染の可能性があり、本アウトブレイクの感染源となっている可能性があることを示している。

○ 疫学データ

2024年4月30日時点で、大腸菌 O157:H7 アウトブレイク株感染患者が2州から計12人報告されている（図）。患者の発症日は2024年2月1日～4月4日である。情報が得られた患者11人のうち7人（64%）が入院した。2人が溶血性尿毒症症候群（HUS）を発症した。死亡者は報告されていない。

図：大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクの居住州別患者数（2024 年 4 月 30 日時点の計 12 人）



公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである（n は当該情報が得られた患者の数）。

年齢 (n=12)	年齢範囲：6～84 歳 年齢中央値：57 歳
性別 (n=12)	67%：女性 33%：男性
人種 (n=10)	90%：白人 10%：アフリカ系アメリカ人または黒人
民族 (n=10)	100%：非ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 10 人全員（100%）がクルミの喫食を報告した。この割合は、過去に実施された FoodNet の住民調査（以下 Web ページ参照）におい

て、回答者の 26%が調査実施日前 1 週間にクルミを喫食したと報告した結果と比べ有意に高い。

<https://www.cdc.gov/foodnet/surveys/population.html>

この喫食率の差は、本アウトブレイクの患者がクルミの喫食によって感染したことを示唆している。聞き取りが実施された患者 10 人のうちほぼ全員が、食品協同組合 (food co-op) または自然食品の小売店舗でバルク容器から有機栽培のクルミを購入していたことを報告した。調査の結果、それぞれが同一の小売店舗でバルク容器からクルミを購入していた患者 2 人ずつのサブクラスターが計 2 つ特定された。

○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムを利用している。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には WGS (全ゲノムシークエンシング) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。

WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離された大腸菌株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

FDA が収集した追跡調査によるデータから、患者が買い物をした小売店舗でバルク容器から販売された有機栽培のクルミの供給業者として Gibson Farms 社が特定された。

○ 公衆衛生上の措置

CDC は、当該クルミの喫食・販売・提供をしないよう注意喚起している。

(関連記事)

米国食品医薬品局 (US FDA)

有機栽培のクルミに関連して発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクの調査
(2024 年 4 月)

Outbreak Investigation of *E. coli* O157:H7: Bulk Organic Walnuts (April 2024)

05/01/2024

<https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/outbreak-investigation-e-coli-o157h7-bulk-organic-walnuts-april-2024>

- 欧州疾病予防管理センター (ECDC: European Centre for Disease Prevention and Control)

<https://www.ecdc.europa.eu/en>

リステリア (*Listeria monocytogenes*) のタイピング技術に関する第 9 回外部精度評価の報告書

Ninth external quality assessment scheme for *Listeria monocytogenes* typing

10 Nov 2023

<https://www.ecdc.europa.eu/sites/default/files/documents/Ninth-ega-Listeria-monocytogenes-typing.pdf> (報告書 PDF)

<https://www.ecdc.europa.eu/en/publications-data/ninth-external-quality-assessment-scheme-listeria-monocytogenes-typing>

本報告書は、欧州疾病予防管理センター (ECDC) が管理する「食品・水由来疾患および人獣共通感染症に関するネットワーク (FWD-Net)」にデータを提出している各国の国立公衆衛生リファレンス検査機関 (NPHRL : National Public Health Reference Laboratory) を対象に実施されたリステリア (*Listeria monocytogenes*) タイピング技術に関する第 9 回外部精度評価 (EQA-9) プログラムの結果をまとめたものである。この外部精度評価 (EQA) プログラムは、ECDC との一連の契約の枠組みにおいて、2012 年以降はデンマーク国立血清学研究所 (SSI) の食品由来感染症部門が主催している。今回の EQA-9 では、血清型判別法および分子タイピングにもとづくクラスター分析が対象であった。

リステリア症は、発生頻度は比較的まれであるが重症化も見られる食品由来疾患で、欧州連合 (EU) 域内の 2021 年の報告率 (人口 10 万人あたり) は 0.49 であった。EU 域内のリステリア症患者数は 2017~2019 年に増加したが、2020 年は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックおよび英国の EU 離脱の影響により、報告患者数が過去最少となった。また、2021 年もパンデミック前の水準には戻らなかった。

2007 年以降、ECDC は、食品由来アウトブレイクの検出・調査の支援も含め、EU レベルのリステリア症サーベイランスに対する責任を担ってきた。特定の基本的なタイピング情報などのサーベイランスデータは、EU/欧州経済領域 (EEA) 加盟各国から欧州サーベイランスシステム (TESSy) に報告されている。2012 年以降、EU レベルのサーベイランスで使用される分子タイピング法が EQA プログラムの対象に含まれた。

EQA プログラムの目的は、各国の NPHRL が FWD-Net に報告するタイピングデータの精度および同性を評価することである。EQA-9 のテスト株は、欧州において現時点で公衆衛生上重要な株、および臨床的に重要な幅広いタイプの侵襲性リステリアの代表株から選定された。血清型判別法および分子タイピングにもとづくクラスター分析の対象として

テスト株 7 株が選定された。また、分子タイピングにもとづくクラスター分析には、さらに 10 個の塩基配列が対象に加えられた。参加登録した 21 機関のうち 20 機関が解析を完了したが、残りの 1 機関は提出期限までに全ゲノムシーケンシング (WGS) 解析を実施できなかった。EQA-9 で解析を完了した機関は、第 7 回 (EQA-7) および第 8 回 (EQA-8) より 3 機関増加した。参加機関の 80% (15/20) がすべての EQA プログラムを完了した。

血清型判別法のプログラムには計 18 機関 (90%) が参加した。PCR ベースの分子生物学的血清型判別法の結果は、参加した 18 機関中 17 機関 (94%) から提出された。4 機関が従来の血清型判別法と分子生物学的血清型判別法の両方を実施し、1 機関が従来の血清型判別法のみを実施した。分子生物学的血清型の平均正答率は高く、96%であった。従来の血清型判別法については、参加機関の 80%が 7 株全てのテスト株を正しく特定した。1 機関は、従来の血清型判別法では 7 株中 5 株について正しい特定ができなかったが、当該機関がプログラムとして初めて行った分子生物学的血清型判別法では正答率が 100%であった。2012 年に第 1 回 EQA が実施されて以降、血清型判別法は正答率が高い分子生物学的手法に切り替わる傾向が続いている。しかしながら、EQA-9 では、3 機関が WGS 法を使用して 'repeat' 株 (EQA プログラムで繰り返し使用されている株) 3 株のうち 1 株を正しく特定できなかった。

EQA-9 に参加した 20 機関のうち 17 機関 (85%) が、任意の手法を用いて分子タイピングにもとづくクラスター分析を実施した。EQA におけるクラスター分析プログラムの理念は、規定の手順に従うことができる能力ではなく、NPHRL が遺伝学的に近縁な株のクラスターを特定する能力、すなわち、使用する解析法に関係なくテスト株を正しいクラスターに分類する能力を評価することである。

近縁な株のクラスターは、WGS 法で得られるデータを用いて EQA 主催者が事前に分類を規定した。したがって、予測された通り、判別精度が低い手法 (パルスフィールドゲル電気泳動 (PFGE) 法など) を用いてクラスターを正しく特定することは困難であった。PFGE 法を使用した 2 機関はクラスターを正しく特定できず、また提供された塩基配列をクラスターに含めることができなかった。16 機関は WGS 法で得られたデータを用いてクラスター分析を行った。高品質データ (QC (品質管理) 分類がレベル A (合格レベル)) の評価では概ね正答率が高く、参加機関の 81%が近縁株のクラスターを正しく特定した。

改変塩基配列 (リードカバー率を約 94%に低下させたクラスター株 (strain17)) は一部の参加機関において解析の障害になり、当該株がクラスター株とは遺伝学的に隔たりがあると誤答された。この EQA プログラムでは、品質が不完全なデータの評価において、各参加機関が使用した手法や方式の違いによる影響が増幅されることが明確に示されている。各検査機関は、各自が使用する手法や方式に有効な品質管理の標準的な閾値を検査し確認すべきである。検査機関は一部の改変塩基配列を異なる QC レベルに分類し、結果は分析および結論に影響を与えた。

参加した全ての検査機関が、リードカバー率が非常に低い改変塩基配列を識別できたが、一部の機関は、少量の異なる配列の混入および異なる 2 種類のシーケンス型 (ST) の混合塩基配列を識別できなかった。推奨の分析法は、参加機関の 88% (14/16) が使用したアレルベースのコアゲノム多座塩基配列タイピング (cgMLST) 法であり、一塩基多型 (SNP) 法を使用した機関は 13% (2/16) のみであった。EQA プログラムでは、Ruppitsch の方式による cgMLST 法 (11/15) が最も一般的に使用されてきたが、今回の EAQ-9 では参加機関の 31% (5/16) がパスツール研究所の方式による cgMLST 法を使用した。EQA-9 では、cgMLST 法による結果の方が SNP 法より同等性が高かったため、cgMLST 法の方が一貫性が高いと結論された。

L. monocytogenes タイピング技術に関する今回の EQA は、FWD-Net に参加する各国の NPHRL を対象に実施された第 9 回目の EQA プログラムである。TESSy の一環として行われた分子タイピング強化サーベイランスシステムは、複数国にわたるクラスターを検出するため、FWD-Net に参加する検査機関が高品質の塩基配列を作成し、同等のタイピング結果を産生する能力に依存している。5 年間にわたり、各公衆衛生機関は、EU レベルのリステリア症 WGS 強化サーベイランスに使用される *L. monocytogenes* の WGS 解析データを定期的に TESSy に提出してきたと考えられる。ECDC は、リステリア症クラスター検出のために加盟各国から提出される WGS 解析データに加え、関連加盟国の公衆衛生機関が EpiPulse を介して最初に実施する複数国にわたるアウトブレイク調査における塩基配列データを収集・分析している。

リステリアの EQA プログラムに関する評価を実施するため、個々の報告に関する認定および情報に関連した質問を含むアンケートの送付によるフィードバック調査が実施され、20 機関中 13 機関から回答があった。参加機関が解析した塩基配列データの QC に関する評価の有効性および低品質データを採用する有用性については、回答した全ての機関 (100%) が高く評価した。

(食品安全情報 (微生物) No.2 / 2015 (2015.01.21) 、No.4 / 2014 (2014.02.19) ECDC 記事参照)

● 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

https://commission.europa.eu/about-european-commission/departments-and-executive-agencies/health-and-food-safety_en

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

https://food.ec.europa.eu/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/search>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/list>

2024年4月23日～5月6日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

ポーランド産冷凍鶏肉・七面鳥肉ケバブのサルモネラ属菌、フランス産の生乳チーズのコアグラージェ陽性ブドウ球菌、スペイン産フエ (サラミ) のリステリア (*L. monocytogenes*)、オランダ産フォローオン調製乳のリステリア (*L. monocytogenes*)、ベルギー産ベーコンバーガーのサルモネラ、オランダ産チョコレートスプレッドのリステリア (*L. monocytogenes*)、フランス産チーズのリステリア、オーストリア産食肉製品 (sucuk) のブドウ球菌、デンマーク産スモークサーモンのリステリア (*L. monocytogenes*)、スペイン産鶏肉製品のサルモネラ (*S. Infantis*)、オランダ産牡蠣のノロウイルスなど。

注意喚起情報 (Information Notification for Attention)

スペイン産スモークサーモンのリステリア (*L. monocytogenes*)、ハンガリー産鴨むね肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*、*S. Enteritidis*)、ポーランド産冷蔵牛タルタル肉の志賀毒素産生性大腸菌 (O26、O145、*stx1*⁻、*stx2*⁺、*eae*⁺、25g 検体 4/5 陽性)、フランス産の生乳チーズのリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産の生鮮家禽肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、ギリシャ産鶏むね肉 (皮なし) のサルモネラ (*S. Infantis*)、モロッコ産タイムのサルモネラ、ポルトガル産二枚貝 (*Ruditapes philippinarum*) の大腸菌、オランダ産ブロイラー (ヒナ) 群のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、ポーランド産冷蔵鶏肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、スペイン産ブロッコリーの昆虫、スペイン産イガイのサルモネラ、カザフスタン産有機大豆搾油粕のサルモネラ、英国産ノロジカ肉 (カット) の志賀毒素産生性大腸菌、中国産ペットフードの腸内細菌、トルコ産レーズンのサルモネラ属菌、米国産 (オランダ経由) のクルミカーネルのサルモネラ属菌など。

フォローアップ喚起情報 (Information Notification for follow-up)

オランダ産大豆ミールのサルモネラ (*S. Agona*)、オランダ産冷凍鶏ひき肉のサルモネラ (*S.*

Infantis)、リトアニア産ヒマワリミール (ペレット) のサルモネラ、デンマーク産魚粉のサルモネラ (*S. Senftenberg*)、スペイン産魚粉のサルモネラ属菌、ドイツ産 (一部オランダ産) 全粒パンと小麦ピタのカビ、ポーランド産鶏肉の鶏舎由来検体のサルモネラ (*S. Enteritidis*) など。

通関拒否通知 (Border Rejection Notification)

ブラジル産冷凍鶏肉製品のサルモネラ (*S. Newport*、*S. Minnesota*)、ブラジル産家禽肉製品のサルモネラ (*S. Minnesota*、*S. Newport*)、トルコ産ゴマ種子のサルモネラ属菌、エクアドル産冷凍エビ (*Litopenaeus vannamei*) のビブリオ (*V. vulnificus*) など。

● 欧州疾病予防管理センター (ECDC: European Centre for Disease Prevention and Control)

<https://www.ecdc.europa.eu/en>

欧州食品安全機関 (EFSA: European Food Safety Authority)

<https://www.efsa.europa.eu/en>

欧州連合 (EU) 域内の人獣共通感染症に関する One Health の観点からの報告書 (2022 年)

The European Union One Health 2022 Zoonoses Report

12 Dec 2023

https://www.ecdc.europa.eu/sites/default/files/documents/EFS2_8442.pdf (ECDC 報告書 PDF)

<https://www.ecdc.europa.eu/en/publications-data/european-union-one-health-2022-zoonoses-report> (ECDC サイト)

<https://efsa.onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.2903/j.efsa.2023.8442> (EFSA 報告書 PDF)

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/8442> (EFSA サイト)

欧州食品安全機関 (EFSA) および欧州疾病予防管理センター (ECDC) は、欧州連合 (EU) 加盟 27 カ国、英国 (北アイルランド) 【英国のデータは 2021 年以降は北アイルランドのデータのみ】 およびその他の非加盟 11 カ国が 2022 年に実施した人獣共通感染症モニタリングおよびサーベイランス活動の結果をまとめた報告書を発表した。本報告書では、ヒト、食品、動物および飼料における人獣共通感染症とその病原体に関する重要な統計値が示され、過去のデータと比較した考察が行われている。2022 年は、ヒトの人獣共通感染症ではカンピロバクター症が最も多く報告され、サルモネラ症が 2 番目に多かった。両疾患の患

者数は、2021年とほとんど変わらなかった。重要な血清型のサルモネラに関する汚染低減目標を、加盟19カ国および英国（北アイルランド）がすべての家禽類で達成した。様々な動物種のとたい由来のサルモネラ検体およびブロイラーとたい由来のカンピロバクター定量用検体について、食品規制当局が実施した検査の結果は、食品事業者による自主検査の結果より陽性率が高かった。報告患者数が3番目に多かった人獣共通感染症はエルシニア症で、志賀毒素産生性大腸菌（STEC）感染症、リステリア（*Listeria monocytogenes*）感染症がそれに続いていた。重症度が最も高かった人獣共通感染症は *L. monocytogenes* およびウエストナイルウイルスによる感染症で、入院率および致死率が最も高かった。本報告書には、蚊媒介性疾患であるウエストナイルウイルス感染症の2022年の国内感染患者数が2021年より600%以上増加したと示されていた。2022年にEUで発生した食品由来アウトブレイクは、件数、患者数、入院患者数および死亡者数のいずれも2021年より多かった。EUのアウトブレイクでの死亡者数は直近10年間で最多であり、その原因菌は *L. monocytogenes* が最も多く、次がサルモネラであった。食品由来アウトブレイクで最も多く報告された病因物質は引き続きサルモネラ、特に *Salmonella Enteritidis* であった。アウトブレイクでの感染患者数が最も多かった病因物質は、ノロウイルス（およびその他のカリシウイルス科のウイルス）であった。本報告書は、ブルセラ症、*Coxiella burnetii* 感染症（Q熱）、エキノコックス症、狂犬病、トキソプラズマ症、トリヒナ症、結核菌群（*Mycobacterium tuberculosis* complex、のうち特に *Mycobacterium bovis*、*Mycobacterium caprae* に注目）感染および野兔病に関する最新情報も提供している。

（参考記事）

欧州疾病予防管理センター（ECDC）

カンピロバクター症およびサルモネラ症の患者数は新型コロナウイルス感染症パンデミック前より依然として少なく、ウエストナイルウイルス感染症患者数は増加中

Campylobacteriosis and salmonellosis still below pre-pandemic levels - West Nile virus infections on the rise

12 Dec 2023

<https://www.ecdc.europa.eu/en/news-events/campylobacteriosis-and-salmonellosis-still-below-pre-pandemic-levels-west-nile-virus>

（食品安全情報（微生物）No.5/2023（2023.03.01）ECDC/EFSA、No.7/2022（2022.03.30）ECDC/EFSA、FAI、No.7/2021（2021.03.31）、No.2/2020（2020.01.22）ECDC/EFSA、No.2/2019（2019.01.23）、No.6/2018（2018.03.14）、No.4/2017（2017.02.15）、No.4/2016（2016.02.17）、No.8/2015（2015.04.15）、No.5/2014（2014.03.05）、No.10/2013（2013.05.15）、No.6/2012（2012.03.21）、No.4/2010（2010.02.10）、No.4/2009（2009.02.12）、No.3/2009（2009.01.28）、No.1/2008（2008.01.07）EFSA、No.23/2015

(2015.11.11) ECDC、No.7 / 2011 (2011.04.06) EFSA、EC、ECDC、No.4 / 2010 (2010.02.10)、No.4 / 2009 (2009.02.12)、No.3 / 2009 (2009.01.28)、No.1 / 2008 (2008.01.07) EFSA 記事参照)

● 欧州食品安全機関 (EFSA: European Food Safety Authority)

<https://www.efsa.europa.eu/en>

牛海綿状脳症 (BSE) および伝達性海綿状脳症 (TSE) に関する科学ネットワークの 2023 年次報告書

Annual Report of the Scientific Network on BSE - TSE 2023

Published: 8 November 2023

<https://efsa.onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.2903/sp.efsa.2023.EN-8386> (報告書 PDF)

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-8386>

欧州食品安全機関 (EFSA) は、職務の一環として、活動の調整による科学協力の枠組み作り、情報交換、共同プロジェクトの策定・実施、専門知識の共有および最良実施規範を推進するため、欧州委員会 (EC) 規則 No.178/2002 に従い、管轄分野内の活動機関のネットワークシステムを構築している。今回報告書を発表した「牛海綿状脳症 (BSE) およびその他の伝達性海綿状脳症 (TSE) に関する EFSA の科学ネットワーク (EFSA Scientific Network on BSE - TSE)」は 2006 年に構築され、2023 年 10 月 11 日に第 18 回年次会議として半日の会議をオンラインで開催した。この会議は、BSE-TSE に関する問題について、欧州連合 (EU) 加盟国、欧州自由貿易連合 (EFTA) 加盟国、EU 加盟候補国、EFSA、EC および特別参加者 (2023 年の会議には国際獣疫事務局 (WOAH : World Organisation for Animal Health) の代表者が参加) が科学的知見を共有する好機となった。この第 18 回会議で検討された主な議題は以下の通りであった。

- ・ 飼料規制の緩和の影響による動物衛生・公衆衛生リスク (オランダの発表)
- ・ EFSA、EU リファレンス検査機関 (EURL)、EC および WOAH が TSE に関して最近行った活動および継続している活動
- ・ TSE に関する 2022 年次 EU 要約報告書の予備的結果

(食品安全情報 (微生物) No.7 / 2023 (2023.03.29)、No.1 / 2022 (2022.01.05)、No.3 / 2017 (2017.02.01)、No.1 / 2013 (2013.01.09)、No.2 / 2012 (2012.01.25)、No.2 / 2011 (2011.01.26) EFSA 記事参照)

-
- 英国保健安全保障局 (UK HSA: UK Health Security Agency)

<https://www.gov.uk/government/organisations/uk-health-security-agency>

超多剤耐性を示す赤痢菌の感染者増加に対する注意喚起

Warning after rise in extremely drug-resistant *Shigella*

21 December 2023

<https://www.gov.uk/government/news/warning-after-rise-in-extremely-drug-resistant-shigella>

英国保健安全保障局 (UK HSA) は、超多剤耐性 (XDR) を示す赤痢菌 (*Shigella sonnei*) の感染患者が増加していて懸念されること、およびその患者の多くが男性同性愛者・両性愛者・男性間性的接触者であることを発表した (以下 Web ページ参照)。

<https://www.gov.uk/government/publications/health-protection-report-volume-17-2023/hpr-volume-17-issue-15-news-20-december-2023#increase-in-extensively-drug-resistant-shigella-sonnei-in-england-predominantly-affecting-men-who-have-sex-with-men>

2023 年 1 月以降に、超多剤耐性赤痢菌の感染患者が 53% 増加した。増加した患者の多くが超多剤耐性 *S. sonnei* の 1 クラスターに感染しており、その患者数は 2022 年が 4 人であったのに対し、2023 年 (1~11 月) は 97 人であった。

この株は、赤痢患者の治療に一般的に使用される抗生物質に耐性であるため、患者の治療が困難になる。患者はイングランド全域に分布しているが、ロンドン (45 人)、北西イングランド (21)、および南東イングランド (12) に特に多い。

2022 年 1 月にも、超多剤耐性 *S. sonnei* の別のアウトブレイク株の感染患者が増加した (以下 Web ページ参照)。

<https://www.gov.uk/government/news/rise-in-extremely-drug-resistant-shigella-in-gay-and-bisexual-men>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックへの行動制限が 2021 年 7 月に緩和されて以降、赤痢患者は増加し続けており、年間患者数は既にパンデミック前の平均値を超えている。月別患者数は、パンデミック前は 2019 年 9 月の 392 人が最多であったが、2023 年 9 月は 485 人で 24% 増加した。

● ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR: Bundesinstitut für Risikobewertung)
<https://www.bfr.bund.de/>

1. 人獣共通感染症および食品安全に関するシンポジウムを開催：食品の微生物汚染、食品由来感染および防止対策

Germs in food - food-borne infections and how to prevent them

08.11.2023

https://www.bfr.bund.de/en/press_information/2023/23/germs_in_food_food_borne_infections_and_how_to_prevent_them-313356.html

食品由来感染症で特に多い原因食品の 1 つは、サルモネラまたはカンピロバクターに汚染された鶏肉である。ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR) は、人獣共通感染症および食品安全に関するシンポジウムを 2023 年 11 月 16~17 日にベルリンの Marienfelde で開催し、重要な議題の 1 つとして鶏舎から始まるフードチェーンにおいてこれら病原体汚染をどのようにして低減させるかについて議論する。BfR の Karsten Nöckler 長官は、「ドイツ国内の食品由来感染症患者は報告された人数だけでも 1 年間に約 10 万人に上り、報告されていない患者はこれよりはるかに多いと考えられる。これらの感染症に効果的に対応するためには、病原体が元々存在していた場所、製造工程で食品汚染が発生する段階、および汚染防止方法に関する知見が必要である。」と述べた。

ドイツ連邦食糧・農業省 (BMEL) の資金供与による合同プロジェクトで、温度処理 (加熱・冷却) による鶏肉の汚染菌量の低減が可能かどうか研究されている。試験では、70°C 以上の湯に短時間浸すだけでも、サルモネラまたはカンピロバクターの菌数が 1 桁減少することが示されている。冷氣による冷却処理 (-90°C) でも、カンピロバクターの菌量が低減する。本シンポジウムでこれらの研究成果を報告する研究者らは、菌量の低減対策としてこのような温度処理が既存の方法を補完できると結論づけている。

その他の議題として、養殖におけるビブリオ属菌や、野生動物が保有する感染性病原体に関する対策が取り上げられている。既存の人獣共通感染症モニタリング報告を背景とする科学的な貢献は特に興味深く、本シンポジウムでも発表され、食品由来感染症対策に関する最新の動向に焦点が当てられる。

ドイツおよび欧州の諸機関の研究者による発表内容には、食品としての昆虫の利用、小麦粉の大腸菌汚染、容器から食品を出す際の衛生上の問題などがあり、広範なテーマが取り上げられる。

2 日間にわたる本シンポジウムは、ドイツ語圏諸国の研究機関、調査機関、監視当局お

よび業界の関係者を対象としている。科学的研修のほか、参加者間のネットワーク構築の促進と、それによる様々な機関間の協力の促進も目的としている。このため、本会議はすべて対面形式で開催される。

2. 英国食品基準庁 (UK FSA) とドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR) がリスク評価およびリスクコミュニケーションに焦点を当てて食品安全に関する科学交流を実施

Risk assessment and communication in focus: Scientific exchange on food safety between the FSA and the BfR

20 November 2023

<https://www.bfr.bund.de/cm/349/risk-assessment-and-communication-in-focus.pdf> (PDF)

食品の国際水準はどのように向上させることができるか？食品安全のための科学的エビデンスの基盤はどのように強化することができるか？また、各担当機関はどのような方法で適切に食品安全リスクを伝えるべきであるか？

食品基準庁 (UK FSA) とドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR) は、主にこれらの議題に焦点を当て、2023年11月9日にドイツのベルリンで科学交流を行った。UK FSA と BfR の協力関係は、食品に関連した健康リスクの評価に加え、これらのリスクに関する情報提供の透明性および有効性の確保を目的とした長年にわたるパートナーシップに基づいている。

この科学交流では、両機関の専門家が集結し、最良の慣行および革新的なアプローチを検討した。

UK FSA は、イングランド、ウェールズ、および北アイルランドにおける食品に関連した公衆衛生と消費者の全般的な利益の保護に取り組む独立した政府機関である。UK FSA の任務には、食品の安全性だけでなく、食品に関連する消費者のその他の利益に関わる事項も含まれており、その例として、価格、安定供給、および環境保護・生産規格に関する分野（動物福祉など）が挙げられる。

UK FSA からは、Jebb 長官をはじめとする代表者が来訪し、主に知見の共有を行った。新しい分子生物学的手法に関する評価・情報提供などについてパネルディスカッションが行われ、UK FSA の専門家は BfR の 2 カ所の検査機関も視察した。食品技術研究所およびカンピロバクターのための国立リファレンス研究機関では案内付き見学が実施され、その際、BfR の科学者が任務について説明を行い、質問も受け付けた。また、より緊密な協力が可能な分野について具体的な議論を進めるための会議もいくつか計画されている。

● ProMED-mail (The Program for Monitoring Emerging Diseases)

<https://promedmail.org>

コレラ、下痢、赤痢最新情報 (15)

Cholera, diarrhea & dysentery update (15)

6 May 2024

コレラ

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
イエメン	5/4	イッブ県ヤリムの Sakhmer	3月～	25 (死亡者 を含まず)	2

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室